

日米・高校生平和会議① アメリカ ボストン・ニューヨーク へ

本日、本校の「ユース非核特使」4名が広島を発ち、アメリカ に向かいました。9/16 ~ 19 に開催される「日米 高校生平和会議」に出席するためです。(リリース文書は → [こちら](#)。特設ホームページは → [こちら](#)。)

現在、ハーバード大学客員研究員として活動されている [渡邊英徳 先生](#) (首都大学東京 准教授) の研究室と共同で製作している ヒロシマ・アーカイブ における活動が評価され、「ユース非核特使」(外務省委嘱) としてのアメリカへ派遣が決まりました。

ボストンとニューヨークの高校生と、様々な角度から平和構築に向けた討議を行う予定です。



* 写真は、出発に先立ち、昨日、星野校長より激励を受けているところです。

この事業は、さまざまな方々からご支援をいただいています。(クラウドファンディングによる支援 → [こちら](#)。)

また、著名な方々からの応援メッセージも届いております。(宇宙飛行士の [山崎直子 さん](#) からメッセージ → [こちら](#)。)

オバマ大統領のヒロシマ訪問から3ヶ月余り。

日米の高校生が、世界の平和構築に向け、共に歩みはじめたことをうれしく思っています。

一行は、無事、ニューヨーク行きの飛行機に搭乗した模様です。



日米・高校生平和会議② ～ニューヨークに到着！

本校高校生4名(高1と高2で4人)は15日(木)の午後、東京・八王子の工学院大学附属高校の高3生2名、長崎の活水高校より高2生が1名、合計で7人が成田空港に集結し、ニューヨークへと！

広島を出発して約20時間、ようやくホテルに到着しました。もう夜だったので、ホテル付近のフードコートで夕食を済ませました。

ホテルの近くにはエンパイアステートビルがあります。なんと、カープ色に染まっていました。笑

全員、元気で無事に到着！明日からいよいよ会議が始まります。明日は国連軍縮部が会場です。どうぞお楽しみに！



日米・高校生平和会議③ ～プレスリリース

9/16(金)～19日(月)にニューヨーク・ボストンで開催される日米・高校生平和会議についての詳細は以下をご確認ください。

(女学院)高校生平和会議 (press release)

日米・高校生平和会議④ Technologies of Peace at the UN! Day 1-1

お待たせしました！ 日米・高校生平和会議の様子をお伝えします。



この会議の英語の名称は Technologies of Peace です。ヒロシマ・アーカイブはじめ、ナガサキ、オキナワ、東日本など一連のアーカイブシリーズを制作された渡邊英徳先生(首都大学東京准教授)が現在、ハーバード大学において客員研究員をされているご縁で実現した今回の会議。本校のこれまでの取り組みを通して得られていた様々なご縁を手繰り寄せ、一本の糸に編んだ感覚です。

ではまずは初日のご報告です。会場は国連軍縮部です。今回、広島女学院は共催という形をとっていますが、アーカイブの意義に共感した国連軍縮部も共催を申し出てくださいました。ですので、会場も提供していただきました。

会場はそれほど大きな部屋ではありませんが、約100人集まりました。地元の高中生や国連の関係者などです。地元のスタイベサント高校や United Nations International School などが参加しましたが、過去2年間、NYで開催されたNPT国際会議に広島市より本校生徒が派遣されたとき、訪問させてもらった学校です。

この日のプログラムは「ヒバクシャストーリーズ」(NY 市を中心に軍縮教育をしている NGO 団体／昨年度夏休みに本校でもデモンストレーション実施)のキャサリン・サリバンさんがリードする Part 1, 渡邊先生がアーカイブを実演するパート2, 日本の高校生がアーカイブはじめ様々におこなっている平和に関する活動を紹介するパート3に分かれています。

それでは、次の記事で詳細をお伝えします。



日米・高校生平和会議⑤ Technologies of Peace at the UN! Day 1-2

いよいよ国連軍縮部を会場にして始まりました！ まずはキャスリーン・サリバンさんが核兵器を現状について、ビー玉を用いたデモンストレーションをし、イメージをさせました。

ビー玉ひとつを落としたときの音が、核弾頭が爆発したときの音と見立て、それが現在世界にある約 16,000 発の核弾頭が次々に爆発したら...と想定し、何十個ものビー玉をアルミ缶に落とします。言葉では表現しがたい音が連続します。その音を、自分の大切な人たちのことを思い浮かべながら、目を閉じて聞くように指示されます。



この音を聞いた生徒たちの感想は、アメリカ人も日本人も「これが本当の爆発だったらと思うとぞっとした」「とても怖くなった」というようなものでした。

「想像すること」の大切さについて、また、いかに核兵器が数多く存在するのかを体験するデモンストレーションでした。

次に、カナダ在住の被爆者・サーロウ節子さんのお話を聞きました。節子さんは広島女学院の卒業生です。13 歳のときに学徒動員として仕事に従事しているときに被爆されました。そのときの生々しい様子を証言されました。そして最後に、ご講演のときにいつも見せておられる黄色い布を本校生徒と一緒に広げて見せてくださいました。この布には広島女学院で被爆死した 350 余名の名前が書かれています。節子さんは「この子も、この子も私の友達だった。私は犠牲者の『人数』を言うのがとてもいやです。ただの数字にされてしまう。彼女たちにはそれぞれ人生があったのに」と言われました。



次に質疑応答です。アメリカ人の生徒から次々に質問が出ました。

「なぜアメリカに留学を？ 原爆を落とした国ですよ。憎しみは？」

サーロウさん: ソーシャルワーカーの勉強をして被爆した人たちを助けたいという一心だったので、希望にみちあふれていた。そのためにアメリカで学ぶ選択をしたので、憎しみではなく、希望。それしかなかった。

「私(中国系アメリカ人)の祖父母は戦時中、日本軍にひどい目に遭わされた。あなたも大変な目に遭っただろうけど、私の祖父母も...。」この生徒は涙ながらに質問しました。

サーロウさん: 私は原爆の被害のことだけを主張するつもりはない。日本軍がアジアで行った行為には本当に心を痛めている。日本人として、あなたの祖父母に謝罪したい

その後、この女子生徒はヒロシマ・アーカイブのメッセージ機能を使って、「私は節子さんのおかげで日本に対する考え方が 180 度変わりました。お話できて本当によかった。ありがとうございました」と感想を述べました。ひとりの高校生の歴史観を変えた瞬間でした。



キャスリーンのデモンストレーションを体験し、サーロウさんのお話を聞いて、高校生たちは自分たちに「今日から何ができるか」について意見交換をしました。

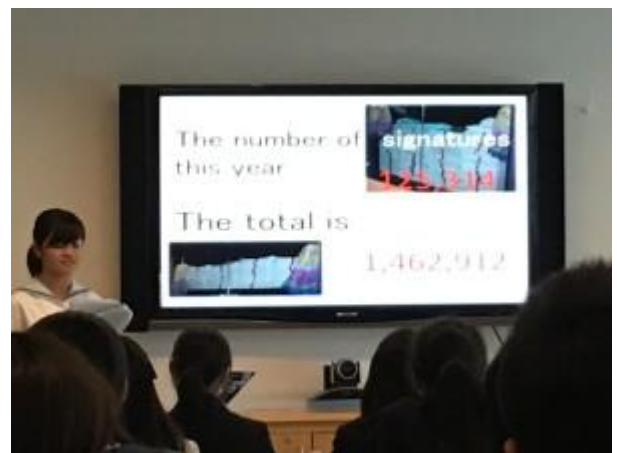
最後にグループ写真。

さらに会議は続きます。パート3は日本の高校生の取り組みについての紹介です。本校からは高1の桧山さんと本藤さん、高2の大久保さんと菅原さんが登場しました。これについては、また次に。

日米・高校生平和会議⑥ Technologies of Peace at the UN! Day 1-3

Technologies of Peace 初日のパート3はいよいよ日本の高校生による日頃の取り組みについてのプレゼンテーションです。

長崎より一人で参加している田中さん(活水高校2年)は学校の被爆状況を説明し、活水高校が長年大切にしている「ふりそで・プロジェクト」について紹介しました。71年前、仲良しの二人の少女が被爆死した実話から、二度とそのような悲劇があってはならないという思いから様々な取り組んでいる活動の紹介です。「ナガサキ1万人署名活動」や「ナガサキ・アーカイブ」などについての説明がありました。





次に東京の工学院大学附属中高です。「東京五輪アーカイブ 1964ー2020」の制作協力をしている同校は、「すべての国が互いを認め合い、競い合う祭典では必ず平和な世界が広がる」ことを軸として活動しています。代表選手だけでなく、関係者にもインタビューをして、この大きな大会を支える人々にインタビューをし、アーカイブ化します。アーカイブの応用例として注目されています。

最後に広島女学院のプレゼンテーションです。手短かに学校の紹介、平和教育、課外活動のうち、碑めぐり、署名活動、アーカイブを紹介し、特にアーカイブを詳しく説明しました。



これら3校のプレゼンテーションにより、アメリカの高校生は「記憶の継承」のため、また核廃絶のために、高校生にもできる活動があると知り、大いに刺激を受けたようです。

最後に「折り鶴」(Orizuru)というショートムービーを参加者で鑑賞しました。これはロサンゼルス在住の曾原みゆきさんが制作したもので、「折鶴」にまつわる様々なエピソードを織り交ぜながら、「折鶴がもたらす平和」をテーマに物語が展開するというものです。佐々木禎子さんと折鶴、主人公・サトシと折鶴、この二者間の関係は時代こそ違うものの、「思いやりの心」が根底にあるのは共通しています。鑑賞後は温かい気持ちになれる映画でした。(複数の映画祭の招待作品となっています。また、監督・制作の曾原三友紀さんは本校卒業生で映画美術監督の部屋京子さんのお友達でもあります)

日米・高校生平和会議⑦ Day 1-4 ホームパーティー

国連での会議を無事に終わりました。翌週(=今週)の国連総会に備え、本当は16時半までのところを17時まで会場使用を認めて頂いたのだそうです。17時ギリギリまでいたため、国連の地下にあるショップに行けなかったのはとても残念でした...

しかし、夜はヒバクシャ・ストーリーズのキャスリーン・サリバンさんがホームパーティーに招いてくださいました。国連から地下鉄を使って約1時間、ブルックリンの静かな住宅街にアパートメントがあります。アメリカ

人の日常生活の一端を垣間見るだけでなく、ホームパーティーも体験し、生徒たちは午後の会議の緊張感から解放され、とても楽しんだようでした。サーロウ節子さんも来て下さり、さらにじっくりお話を伺いました。



卒業生でNY在住の竹内さんと。



最後に集合写真。こんなに集まりました！ みなさん、高校生のこのプログラムを全力で支えてくださっています。

ニューヨークの一般的なお宅に伺い、ホームパーティーまで体験した夜でした！

日米・高校生平和会議⑧ Day 2 9/11 Tribute Center, そしてボストンへ！

今日はボストンに移動する日ですが、移動は午後なので、午前中は9.11 メモリアルへ。これは2001年に発生した同時多発テロでテロリストの攻撃により崩落したワールドトレードセンターに関する展示がしてあります。

ボランティアガイドのマリアさんに案内してもらいました。





左: 10メートルを超すがれきのなかから見つかった「奇跡の木」。
他国の首相などが訪問した際には、この木の前にも献花するそうです。
写真に写っているのはオーストラリアの首相から贈られたもの。



右: 禎子さんの折り鶴。
アメリカ国内には、パールハーバー、
トルーマン図書館、9/11 メモリアル
の3か所に寄贈してあります。

最後に2時間ガイドしてくださったマリアさんにお礼を。



彼女自身、9/11 の生き残りだそうです。当時、ワールドトレードセンターにオフィスがありましたが、出勤するのが少し遅くなり、難を逃れたとのこと。しかし同僚や友人を亡くし、悲しみにくれるも、「ガイドをすることが私の癒しであり、犠牲になった友人たちへのトリビュート(感謝や尊敬をあらわすもの、行為)なの」とおっしゃっていました。

トリビュートセンターでは、消防士の最後の交信記録を生で聞いたり、犠牲者の写真のコラージュがあったりするなど、亡くなった人々の「生きた記録」が一人一人に

焦点が当てられていました。これもまた「記憶の継承」の一形態です。2時間程度しか時間がなかったため、駆け足で見ることになりましたが、戦争やテロの犠牲になった人々の記録を記憶していくことの意味を考える時間となりました。

戦争やテロなど、すべての暴力行為において、幸せになる人間はひとりもないはず。そういった行為が一日も早くなくなるよう、小さな努力でも継続しなければ、と思いを新たにした時間でした。

午後のフライトでボストンに移動です。午後7時ごろホテルに到着し、夕食かねて少し街を散策しました。世界中から様々な人が集まるニューヨークとは異なり、とても趣のある、落ち着いた街です。路上でのミュージックパフォーマンスはヴィオラとヴァイオリンで、レベルがとても高く、癒されるひと時となりました。

日米・高校生平和会議⑨ Technologies of Peace at Harvard! Day 3-1



いよいよ会議 2 日目です。会議の主催者である渡邊英徳先生がハーバード大学で客員研究員をしておられる関係で、会場を使わせてもらえることになりました。地下鉄を降り、地上に出るとすぐにハーバードです。

重厚な門構えに高校生一同、感動しました。



「足を触ると賢くなる」と言われているジョン・ハーバードの像。(創立者ではありません) 嬉しそうに触って「これでかしこくなりました！」とはしゃぐ生徒・・・。



会議は被爆者の証言から始まりました。アメリカ在住の被爆者として、藤本治祥先生がロサンゼルスからボストンまで来て下さいました。藤本先生が今回来て下ることになったのはまったくの偶然ですが、なんと1980年代半ばに広島女学院中高において聖書科の教員として3年間務めた方です。先生の被爆体験はあらかじめ宿題として読んでくるようにとの指示で、この日はご自身のクリスチャンとしての経歴に沿って短くお話をされ、その後質疑応答に多くの時間を費やされました。



アメリカの高校生は、「なぜアメリカで伝道活動をされたのか。原爆を落とした国で、憎いと思わなかったのか」と質問しました。これに対し先生は、「憎いと思ったことは一度もない。聖書に『主よ、彼らをお許しください。彼らは何をしているか知らないのですから』と書いてあり、私はこのためにアメリカで牧師として伝道活動に従事した」と答えられました。また、本校生徒が「学校では原爆のことを勉強し、また日本がアジアで行った残虐な行為のことも習

う。自分のなかで加害者としての日本と被害者としての日本をどのように整理してよいかわからない」と質問しました。藤本先生は「とにかく謙虚な気持ちを持ち続けること」とシンプルにお話されました。

続いて日本の高校生によるプレゼンテーションで、学校紹介と日頃の活動を紹介しました。内容は国連でのプレゼンと同じものです。



この後、ランチです。午後のグループディスカッションに備え、グループごとにお昼を好きなところでとることになりました。

日米・高校生平和会議⑩ Technologies of Peace at Harvard! Day 3-2

ランチタイムは本当に楽しそうでしたね。食後にキャンパスに来ていたアイスクリーム屋さんでアイスを買って、おいしそうに食べていました。英語で注文するのもだいぶ慣れてきたようです。



私(引率)は校舎内をブラブラ歩き、いろいろと面白いものを見つけました。



Chain of Life と書かれてあります。「生命をつくるもの」とでもいいでしょうか。元素記号が見えますね。

また、ハーバード大学の教室は意外にも黒板がたくさんありました。教室の中を1周する感じです。



日曜日でしたが、なぜか普通に授業をやっていました。ちょっと見えにくいですが、数学の図形らしきものを黒板に描いています。

さて、午後はグループに分かれてディスカッションです。「自分たちに何ができるか」について具体的なアクションプランを考えるというのがテーマです。約2時間半にわたり討議していましたが、日本の高校生は英語でのディスカッションに四苦八苦しながらも、貢献できたようです。





各グループごとに模造紙にアクションプランを書き、最後にその内容を手短に全員の前で発表しました。

会場はこんな感じでした。



この日のプログラムが終了したあと、ハーバードの生協にダッシュ。とにかくハーバードのロゴの入ったおみやげを買わなくては！ということで、30分で買い物をしました。



夜はボストン日本人会主催の歓迎会でした。日本料理屋さんでのひととき、これまた多くの人との交わりがあり、話がはずんだようです。

日米・高校生平和会議⑪ Day 4-1 Boston Latin School

朝 7 時半。私たちは Boston Latin School の正門にいました。



学校見学を受け入れてくれたボストンラテンスクール (BLS) とは、アメリカで最も古い学校で、1635 年に創立されました。ハーバード大学は翌年の 1636 年です。今回の学校訪問を全面的にお世話してくださった Judi 先生 (歴史) によると、「ちょっとしたジョークがあっただけ、ハーバードは BLS の生徒を受け入れるために創立されたのよ」と笑いながら話してくださいました。この学校は公立ですが、ボストン周辺のトップ層が集まる学校で、examination school と呼ばれる

学校です。通常の学校とは異なり、7 年生 (中 1) ~ 12 年生 (高 3) の 6 力年です。入学するのも競争率が高く、例年 4, 5 倍とのこと。進学先もいわゆるアイビーリーグ (東海岸の名門大学) が多く、特にハーバードには毎年 30 名近くが進学するそうです。



この写真は講堂の内部で、暗くてよく見えないかもしれませんが、世界史の教科書に出てくる人が何人もいます。



優秀な生徒がそろっているということで、日本の高校生たちは不安がっていましたが、Judi 先生が生徒ひとりに対し、一人ずつ BLS の生徒をつけてくださり、7 時半から 11 時半まで、その生徒が選択している授業に参加させていただきました。(写真はマッチングをしているとき)



4つの授業に参加するわけですから、日本の高校生は大丈夫だろうかとむしろ引率者のほうが心配しましたが、杞憂だったようで、わからないなりに楽しんだようです。「日本語も英語もともに使えるのに、スペイン語の授業！さっぱりわからなかったけど、なんか楽しかったー！」と明るく話す姿に女学院生のたくましさというか、天真爛漫な姿に安心するやら、逆に大丈夫だろうかと心配になるやら。とにかく、あっという間に 4 時間が過ぎました。

引率者は BLS の生徒に学校案内をしてもらい、また Judi 先生の歴史の授業の見学もしました。アメリカでは年度初めということもあり、通常の歴史の授業に入る前に「自分の歴史に向き合う」という目標のもと、生徒は「自分の生き立ちについて」「私という人間」について、写真等を見せながら(パソコンではなく紙ベースで)説明をします。とても興味深い取り組みでした。

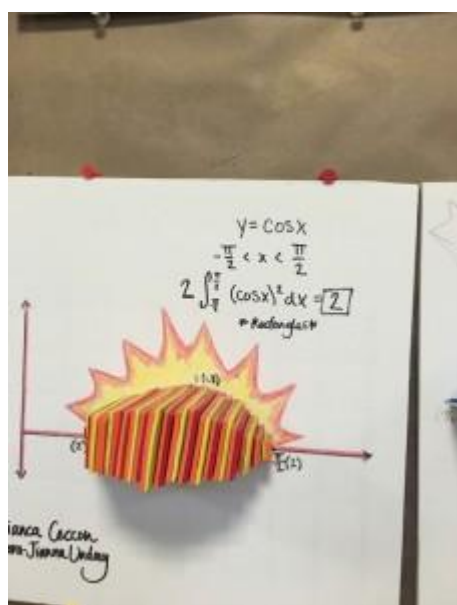
以下は学校内の様子です。まずは図書館。



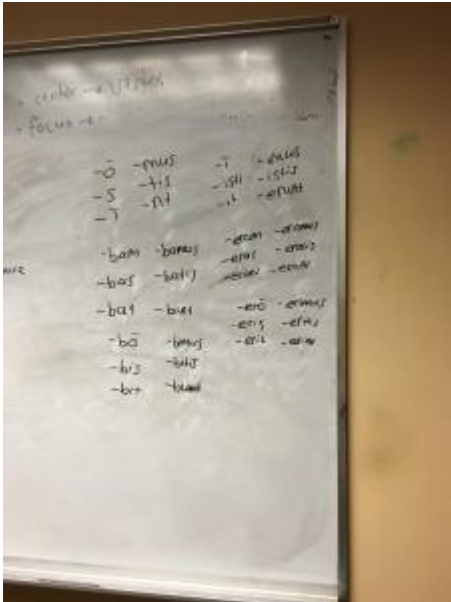
ロッカーはすべて廊下にあります。



音楽は音楽理論が全員必修。あとは選択で、合唱、オーケストラなどがあるようです。



数学。数式を使って、作品をつくっているようです。

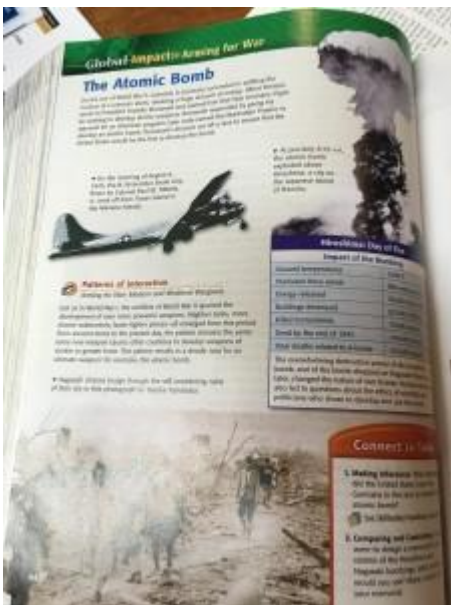


ラテン語の語尾活用です。この学校では全員が4年間ラテン語を学びます。



ドアにはりつけてあった面白いフレーズ。成功するための戦略：時間、集中力、情報源、フィードバックの活用、コミットメント、忍耐、だそうです。

ランチは BLS が私たち全員にサンドイッチを準備してくださっていて、朝到着してから 12 時過ぎ学校を出る時まで、細やかなおもてなしに終始感激していました。Judi 先生とは、今後も何らかの形で交流を続けたいね、と話しました。



また、引率者が司書教諭(工学院)と英語(女学院)であること、また平和をテーマにしていることから、図書館での時間をたっぷりとして下さったり、実際に授業で使っている世界史の教科書のうち「ヒロシマ」をどのように扱っているかについての説明も受けたりしました。

最後に集合写真。



本校も数多くの学校見学を受け入れています。このようにきちんとおもてなしできているだろうかと改めて考える良いきっかけを頂きました。

一期一会ですね。

日米・高校生平和会議⑫

Day 4-2 Boston Museum of Fine Arts (ボストン美術館)とアメリカ最古の教会

午後はボストン美術館(Boston Museum of Fine Arts)です。
ここは全米屈指の美術館で、特に浮世絵、エジプト、印象派
の収集で知られています。2時間の自由時間でしたが、とて
もまわりきれぬ時間ではなく、ポイントをしぼり、思い思いに
鑑賞しました。

クロード・モネ Haystacks in the snow



浮世絵



エジプト関連



絵の修復工房



このような情操教育を取り入れることも大切にしたいですね。



この後、会場であるボストン公立図書館に移動したのですが、そのお向かいにあるアメリカでも最も古い教会のひとつ、Old South Church にも少し寄ってみました。1669年に建てられ、アメリカの歴史上、重要な教会だそうです。



日米・高校生平和会議⑬

Day 4-3 Technologies of Peace at Boston Public Library!



遂に最終回を迎えました。会場はボストン公立図書館です。この図書館は外見は趣のある建築で、中庭がとても美しいのですが、中は近代的かつ、しゃれたデザインでした。全体的に落ち着きがあり、利用者も多いのが印象に残っています。

この図書館の中の一室で Technologies of Peace の最終回を迎えました。





まずは在ボストン総領事館の領事の方のごあいさつで始まりました。

日本から参加している高校生が、NYとハーバード大学での会議の感想を簡単に紹介。



次に被爆者の藤本先生に再度ご登壇いただき、パネルディスカッション形式で進みました。藤本先生のほかはウィルミントンカレッジ(オハイオ州)のターニャ・マウスさん(米で最も多く被爆関連の資料を有する Peace Resource Center の館長、歴史学博士)、ミシガン大学の博士課程に在籍するアレックスさん(文化人類学)も登壇し、藤本先生の通訳を務めつつ、自分たちの意見も時々はさまれていました。

続いてアーカイブに関するレクチャーを渡邊先生が、活用事例を日本の高校生がプレゼンテーションしました。



最後に今後取り組んでいきたいことを昨日のグループごとに手短かに発表し、午後 8 時前に無事に会が終わりました。



特に印象深かったのは、歴史教育に対する生徒たちの姿勢です。使用する教科書で歴史観が大きく変わってくることや、それが国によって異なってくることに對する気づきがありました。より多角的な視点で歴史を見る必要があると思った生徒たちは今後教科書の情報を交換しよう、と話していました。また、核廃絶に向けた努力として、署名活動を始めてみる、アーカイブのようなツールを授業で取り上げてもらうよう先生にお願いする、など実に様々なアイデアが生まれました。一連のディスカッションをリードしたのはアメリカの高校生ですが、日本の高校生は平和教育の素地があるので、そのあたりは大いに貢献できたようです。



出入り口付近に設置された”Tech of Peace”のまわりに多くの人がメッセージを残してくださいました。

最後にそれを持って集合写真。チーム女学院、ターニャさん、首都大の院生たち。

さて、今回の Technologies of Peace が今後どのように発展するのでしょうか。楽しみにしていきたいと思います。

日米・高校生平和会議⑭ Day 5 そして帰国の途へ

9月20日。いよいよ帰国の日となりました。朝7時のフライトでボストン→ニューヨークです。5時半出発予定でしたが、同じところに泊まっていた首都大学の院生のみなさんがわざわざ早起きしてエレベーターの前で待ってくださっていました。連日連夜、とても忙しく、睡眠不足のなかお見送りくださり、とても感激しました。写真のHarvardというのは、ホテル内にある看板です。それにしても、みんな眠そう・・・。





機中よりボストンを眼下に。ホテルの近くにボストンコモンという公園があったのですが、その端っこが写っています。ホテルはそのちょっと向こうにあります。(雲で見えない……)

ニューヨークから15時間の飛行時間を経て、無事に成田に到着しました。行きの飛行機では必死に予習したり、資料を読み込んだり、プレゼンの練習をしたりしましたが、帰りはリラックス。

そして、1週間ともに過ごした工学院大学附属高校、活水高校のみんなともお別れです。名残惜しいようでした。



さて、今回の Technologies of Peace、多くの方々に支えられ、無事に終了しました。資金面では、クラウドファンディングで200万以上、また本校は国際交流基金より70万円の給付を頂きました。今後はまず、報告書作成、学校内外での報告会等々が待っています。今回の学びをより多くの人々に還元しつつ、今後のTech of Peace の発展形も同時に考えていければと願いつつ。

首都大学東京の渡邊英徳先生、渡邊英徳研究室の大学院生の皆さん、本校卒業生の皆さん、Hibakusha Stories の皆さん、ターニャさん、アレックスさん、ボランティアで支えてくださったみなさん、誠にありがとうございました！